

歴史探訪には地域への愛がある

伝統を後世に、地元を元気に、歴史愛好家のまちづくり

矢島歴史の会

地元の大切なもの残したい
危機感覚えた住民らが発足

矢島歴史の会は地域の歴史や文化遺産を調査、確認、研究しようとして平成26年に発足しました。発端は発起人である岡田栄さんの「高齢化が進み、放っておいたら、大切な地域の宝物も伝承も失われてしまう」という危機感からでした。仲間を募ったところ、歴史愛好家や地元農家など10人が集まりました。

室町幕府第15代将軍 足利義昭が滞在した「矢島御所」、一休和尚ゆかりの「少林寺」、重要文化財の「木造聖観音菩薩坐像」など、矢島町は歴史遺産の多い地域です。多くの古文書も残されています。

周辺地域には蓮如上人や金森長近など歴史上の人物にゆかりの場所があり、その足跡が矢島町にも伝わっています。

歴史愛好家はもとより、歴史に詳しくなかった人にも、資料や古文書などから地元のルーツや歴史文化をひも解いていくのは楽しい作業でした。しかも、接点の少なかった同好の士と友情や絆も深まってきました。新たな知識を得るたびに地元愛が深まっていくといいます。

冊子の発行は、会を発足する原動力となった「地域の歴史と宝物を後世に残したい」という目的の一つが形になったものでした。

地元を学ぶ楽しさを共有
市民活動から冊子を発刊

わがまちの宝を広めたい
御城印で町おこしへ

冊子の発行を実現した矢島歴史の会は、「あまり知られていないマイナーな歴史遺産を多くの人に広めたい」という新しい町おこしの夢を持ちました。

世間は御城印ブームが起きていて、パワースポットや観光スポットで次々に新しい御城印などが制作されています。矢島歴史の会も「室町幕府第15代将軍 足利義昭が滞在した御所址の御城印を制作して認知度を上げ

よう」と考え、メンバーの知恵と意見を出し合い、試行錯誤を重ねて完成させました。

歴史と郷土愛を
地元から学区へ、市域へ

矢島歴史の会の代表、八幡吉治さんは「郷土を愛する趣味のグループとして、専門家に負けないう意気込みで調査研究をしていきたい」といいます。

専門家になるのではなく、たゆまず地域の歴史と魅力を探る市民グループとしての活動を、これからも続けていきたいと考えています。

さらに地元矢島町を中心に、郷土の歴史や文化を探る楽しさを玉津学区や市域まで広げたいと、周辺自治会に働き掛け、赤野井町にも赤野井歴史の会が立ち上がりました。新しいメンバーを迎えたり、蓮如上人ゆかりの遺跡の勉強会を計画するなど、ますます精力的に活動しています。



毎月1回、夜の矢島自治会館に集まって、地元の文化や歴史を語り合っていて、お寺や地元ゆかりの偉人の話になったり、民俗の話になったりして、学びあって笑い声を響かせています

新たに制作した「矢島御所址」御城印



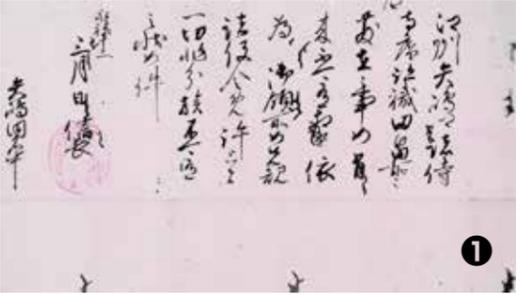
御朱印や御城印が各地で作られたことになり、マイナーな矢島城・矢島御所を多くの人に知ってもらおうと制作しました(令和3年2月完成)。メンバーで話し合っ、何度か作り直し、家紋や花押など歴史考察の上でデザインしました。大小2種類あり、矢島自治会館などで有料配布しています

矢島町の歴史と魅力を伝える冊子



調査研究をまとめた冊子「守山市 矢島のむかし」を制作しました(令和2年)。専門的な分け方をせず、広義の歴史をテーマに史跡や社寺、農業など矢島町をめぐる冊子となっています

冊子で紹介されている魅力の一部を紹介



- ①織田 信長朱印状(織田 信長から矢島氏一族への書状 京都大学総合博物館蔵)
- ②木造聖観音菩薩坐像(国重文 武道天神社保管)
- ③田畑に水を引き込んだ湧き水の源流である矢島湯跡(播磨田町)
- ④伝統野菜の「守山矢島かぶら」

